

海を渡る果物

東京学芸大学附属世田谷小学校

五年 立見 理彩子

果物か……。届いた副読本を読み終え、私は考えた。様々な種類があり、たくさん品種を栽培している日本。しかし、最近、スーパーでは国産ばかりでなく、外国産の果物が並ぶ棚が増えてきた。バナナなどは昔からあるが、フィリピン産のマンゴーやパイヤ、アメリカやチリ産のぶどうなどもある。そういえば、以前、ニュースで見たが、TPPで外国の物が入りやすくなるようだ。これから国産の果物は、果たして世界の果物に勝つことができるだろうか。

例えばみかん。私はこの前、学校でみかん狩りに行ったことを思い出した。高い山々を登り、やっと着いたみかん畑。みかん畑はとても広く、数百本もの木が植わっていて、一面緑色の中に、オレンジ色のみかんがぎっしりとなっていた。農家の人が三、四人いて、「みかんは茎を切った後、実の部分を取ったらいいよ。」

と教えてくれた。早速、みかんを取ってみた。やわらかい皮をむいて、一房食べると、とてもあままずっぱかった。

「私のみかん、とても甘いよ。」

みんなが口々に言った。もぎたてのみずみずしいみかんは、いつものみかんよりますますおいしく感じられ、私達は次々にもいでは口に運んだ。

帰ってから果物の副読本のみかんのページを開いた。みかんを作るって大変なんだな、私は農家の人の大変さをつくづく感じた。でも、大変だからこそ、こんなにおいしいみかんを作ることができるんだと思った。

このようなみかんを世界の市場へ輸出すれば、世界の人々にも、日本のみかんのおいしさを知ってもらえることができる。みかんだけではなく、他の日本の果物も海を渡って外国の人に食べてもらえたら、きっと外国の人も喜んでくれるだろうし、農家の人も嬉しいだろう。日本だからこそ作ることができる果物を海外の人にもたくさん食べてもらいたい。そして、果物が日本の人と遠い外国の人を結んでくれるに違いない。